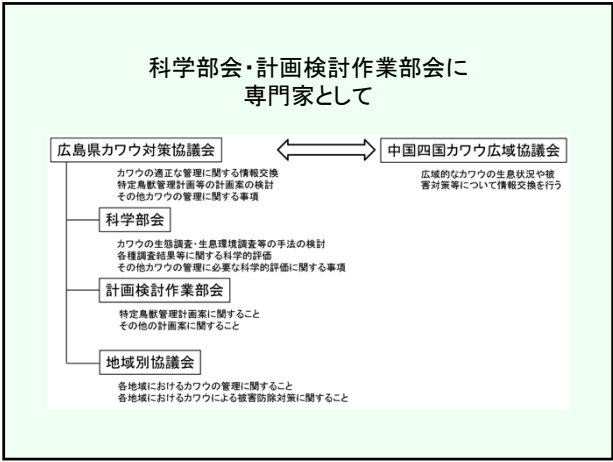


個体群管理事例 広島県
～ 専門家の立場で考えたこと ～



図表出展: 広島県
第二種
特定鳥獣(カワウ)
管理計画

NPO法人バードリサーチ
高木憲太郎



カワウを知る

チーム広島を作る



チーム広島

- エースピッチャー 広島県水産課 G氏
- キャッチャー 広島県自然環境課 F氏

その他、選手が揃う

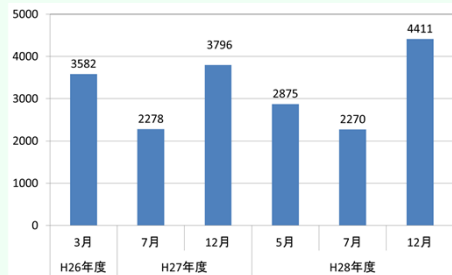
- 強力な上位打線 漁協・漁連・水産課・市町
- 支える下位打線 野鳥の会・市町・専門家



ねぐら・コロニーの規模に応じた
管理の基本方針

生息数	特徴	基本方針	対策の目的	具体的な方法
小規模 1～50羽	対策の結果、周辺に与える影響が小さい。分布抑制を目的とした対策の効果が期待できる。	分布抑制（除去）を目的とした積極的な対策を検討する。	分布抑制（追い出し/除去）	ビニルひも張り（全体）/銃撃捕獲
中規模 51～200羽	対策の結果、周辺に与える影響が小さい。対策にあたっては注意が必要である。	モニタリングを含めた十分な実施体制のもと、対策の効果が期待できる場合、対策を検討する。	分布抑制（追い出し/除去） 生態数の低減	ビニルひも張り（一部または全体）/銃撃捕獲 罠捕獲（ドライアイス・罠法）
大規模 201羽～	対策の結果、周辺に与える影響が大きい。対策は慎重に行う必要がある。	周辺に与える影響が大きいことから、積極的な対策は慎重に検討する。	生態数の低減	罠捕獲
新規 1羽以上	カワウの生息数の増加、あるいは人為的影響（ねぐら・コロニーの形成）等により新たに形成される。一時的に、形成過程が早いほど被害の発生リスクとなるおそれがある。カワウの生息数は低い。そのほか、被害は、被害を受けた個体の被害が広がれば、生態数に大きな影響を及ぼす可能性がある。	早期発見に努め、周辺地域におけるカワウの生息数を低減する。被害の発生リスクを低減する。被害を受けた個体の被害が広がれば、生態数に大きな影響を及ぼす可能性がある。	分布抑制/除去	ビニルひも張り（全体）/銃撃捕獲

カワウの個体数の季節変化



衛星による成鳥の追跡

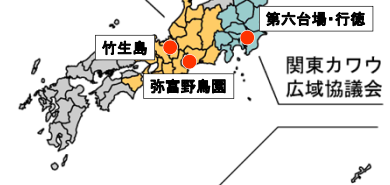
調査期間: 2006年から2008年までの3年間

捕獲時期と羽数:

東京湾の第六台場	6月	6羽
千葉県行徳	3月	1羽
伊勢湾岸の弥富野鳥園	11~12月	23羽
琵琶湖の竹生島	5~6月, 9月	19羽

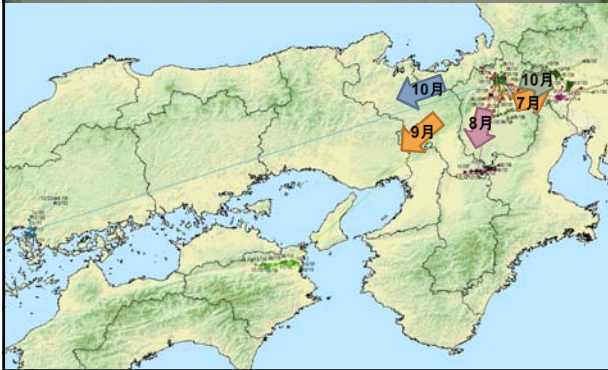


中部近畿カワウ
広域協議会

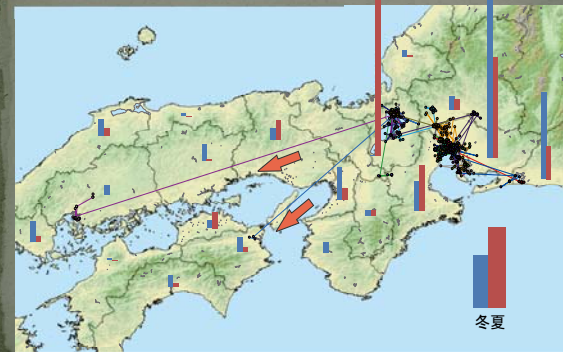


竹生島捕獲個体

平成20年度魚食性鳥類であるカワウの移動実態の解明に関する研究業務報告書(2009)より

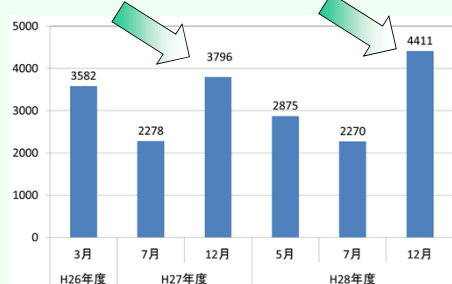


全国のカワウの個体数の季節変化

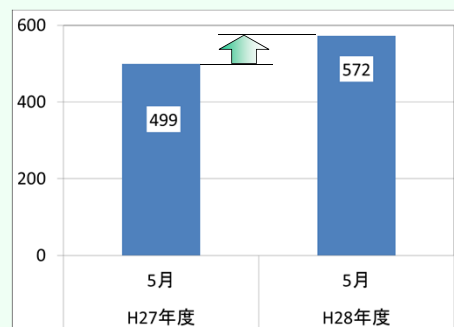


2007 年前後の生息状況についてのアンケート調査による

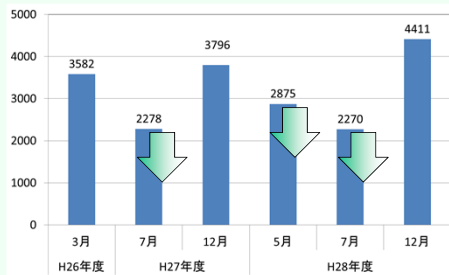
重要なのは、
ここじゃない！



営巣数の増加！！

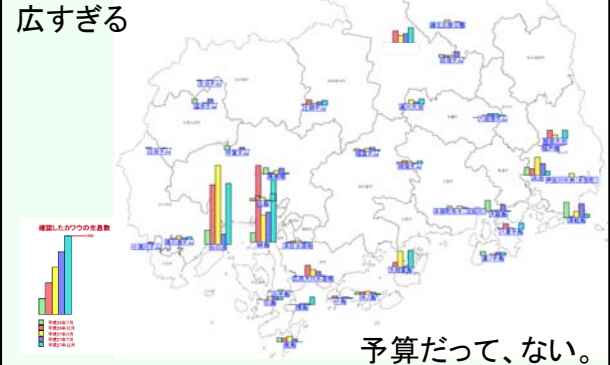


じゃあ、夏の個体数を減らせば良いのか？

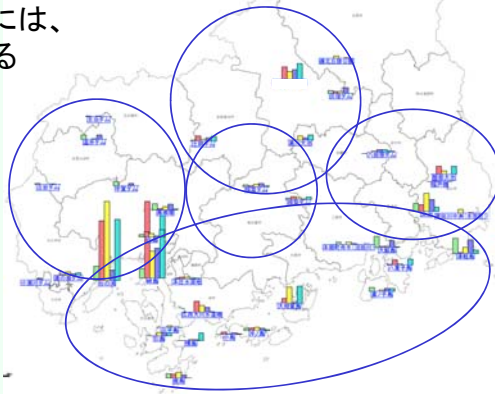


県全体で計画を考えるには、広すぎる

個体数調整の効果が
出るまで時間がかかる



県全体で計画を考えるには、広すぎる



4つの管理ユニットに分けた！



4つの管理ユニットに分けた！

